

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会
次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会
電力安定供給ワーキンググループ
の設置について

- 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス基本政策小委員会では、電力システム改革の包括的な検証を行い、令和7年3月末に「電力システム改革の検証結果と今後の方向性～安定供給と脱炭素を両立する持続可能な電力システムの構築に向けて～」をとりまとめ、次世代の電力システム構築に向けた検討の方向性を示した。
- これを受け、同年6月には、同調査会 次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会の下に設置された「電力システム改革の検証を踏まえた制度設計 WG」（制度設計 WG）において、次世代の電力システム構築に向けた具体的な検討が進められてきた。また、同小委員会の下にある「制度検討作業部会」においても、容量市場や長期脱炭素電源オークションを含め、各種電力市場・制度の運用を通じて確認された課題に対応すべく制度見直しが累次実施されてきた。
- 制度設計 WG では本年3月にとりまとめが行われ、継続検討事項については、それぞれ適切な場で議論を進めていくこととされた。このうち、電力安定供給を担保するための短期及び中長期の供給力の確保については、大規模電源の休廃止に係る一般送配電事業者との事前協議の仕組みの構築、供給力の確保に向けた容量市場等の見直し、新規電源投資の促進のための長期脱炭素電源オークション制度の見直しなどについて、今後も継続的に審議を行う必要があると整理された。
- これらの検討により、電力の安定供給の確保を実現していくことが重要である。その際には、2050年カーボンニュートラルの方針も踏まえた電源の脱炭素化の観点も含めた総合的な検討を行うことが望ましい。このため、これまで制度検討作業部会において審議されてきた各種市場・制度も含め、電力の安定供給の強化に向けた短期及び中長期の供給力の確保と脱炭素化の両立に関する議題を取り扱う場として、同小委員会の下に、「電力安定供給ワーキンググループ」を設置することとした。
- 「電力安定供給ワーキンググループ」では、主に、以下の議題を審議することとする。
 - ・ 短期及び中長期の供給力確保のあり方／脱炭素化との両立のあり方
 - ・ 容量市場、長期脱炭素電源オークション、予備電源、需給調整市場、非化石価値取引市場のあり方
 - ・ その他、供給力確保に関する制度的対応のあり方

(大規模電源の休廃止に係る一般送配電事業者との事前協議 など)